

尼北だより



学校通信 第494号

平成30年4月27日

尼崎市立尼崎北小学校

校長 都倉 功充

時代の流れに乗りながら、挑戦し学び続ける学校をめざして

新緑の季節を迎え、校内のヒラドツツジやハナミズキが鮮やかに咲きほこっています。入学や進級をした子どもたちも、新しい友だちや先生との生活が始まり、ひと月近くが過ぎました。4月は、参観・懇談に続き、家庭訪問をさせていただきました。学校や学級の方針を示し、家庭での様子や考えを伺うなかで、これから力を合わせ、お子様の成長を育む第一歩となったと考えております。誠にありがとうございました。20日に行われた一年生を迎える会では、体育館が温かい雰囲気にも包まれ、新しい尼北っ子の仲間入りをお祝いしました。新しい尼北の歴史が始まった感じがしています。

さて、新しい歴史と言えば、今年とは昨年度までと違うカリキュラムが始まりました。その一つが外国語です。これまで7年間、5・6年生を対象に教科ではなく領域として「外国語活動」を実施してきました。それが、2020年完全実施の学習指導要領では、5・6年生では教科「外国語」、3・4年生では領域「外国語活動」となります。ただし、今年度より移行期間として先行実施しています。具体的には、3・4年生では年間15時間、5・6年生では年間50時間の授業を行います。

そもそも、文部科学省が外国語教育の導入を本格的に検討し始めたのは1990年代に入ってからです。これは、社会がグローバル化していくなかで、これからの時代を生きる子どもたちが外国語に慣れ親しむとともに、外国語の背景にある文化に対する理解を深めたり、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養ったりすることをねらいとしています。つまり、外国語の導入は、時代の要請と言っても過言ではないでしょう。学習指導要領は、およそ10年ごとに改訂されてきていますが、社会の変化や子どもの生活の変化、時には、米ソの宇宙開発の影響も受けながら変化してきています。すなわち、時代の流れの中で、子どもたちのよりよい未来と成長を願い考えられているのです。それを具現化し、直接子どもに授業として展開していくのは学校であり、私たち教師ですので、私たちも指導力を伸ばすべく、研鑽を重ねているところです。子どもも教師も、新しいことに挑戦し学び続けていく学校でありたいと考えております。

新しい教育という点では、外国語以外に、道徳が「特別の教科 道徳」となったり、キャリア教育が重視されたりもしています。これらについては、改めてお知らせをしていく予定です。

一年生を迎える会

みんなで歌を歌ったりゲームをしたりして、楽しい時間になりました。

